

令和4年第1回岡崎市社会教育審議会会議録

日 時 令和4年2月9日(水) 午前9時30分～午前11時
会 場 市役所西庁舎5階502号室
出席委員 野 田 光 宏 (元岡崎市立中学校長) 会長
増 澤 徹 (元岡崎市立中学校長) 副会長
長 坂 博 子 (岡崎市立小学校長)
石 川 基 司 (岡崎市私立幼稚園協会会長)
小久井 孝 幸 (岡崎市PTA連絡協議会顧問)
水 野 達 (岡崎市学区社会教育委員長連絡協議会会長)
加 納 寛 樹 (岡崎市子ども会育成者連絡協議会会長)
荻 野 嘉 美 (千万町・木下ふるさとづくり委員会委員長)
福 田 貴 子 (社会教育指導員)
葉 山 栄 子 (名古屋学芸大学参与)
浅 岡 悦 子 (市民公募)
成 瀬 眞佐子 (市民公募)
事 務 局 社会教育課 福澤課長、柴田副課長
社会教育係 内田係長

- 議 事 1 あいさつ
2 議題
(1) 社会教育審議会について
(2) 社会教育審議会の年間活動計画について
(3) 社会教育審議会での協議事項について

議 事 録

(1) 社会教育審議会について

- ・「社会教育法」「岡崎市社会教育委員に関する条例」に基づく社会教育委員の役割、社会教育審議会を始めとする岡崎市の社会教育関係組織等について、事務局から説明を行った。

(2) 社会教育審議会の年間活動計画について

- ・社会教育審議会の年間活動計画について、事務局から説明。
- ・過去2年は新型コロナウイルス感染症の影響により、県・三河支部・市の行事の多くが中止となり、市における事業も一部が実施できていない。今後も不透明であり、情勢を見極めつつ検討していく必要がある。

- ・今年 10 月に、東海北陸社会教育研究大会が愛知県東海市で開催される予定であり、県から市に対し参加要請が来ている。社会教育委員の皆様にはできるだけ参加をお願いしたい。

(3) 社会教育審議会での協議事項について

事務局：これまで、審議会では独自の取り組みとして、長年にわたりあいさつ運動を中心とした事業を展開してきた。新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな展開が求められており、コロナ禍後の社会教育及び社会教育審議会の活動について協議検討を行いたい。また、国においても社会教育に関連し新たな取り組みが開始されており、令和 4 年度には岡崎版コミュニティスクールが開始される予定。市における地域学校協働活動を含む、今後の活動についても協議事項に加えたい。

委員：色々な活動がストップしており、子どもを見ると今は家庭と学校しかなく、地域と一般社会の繋がりがコロナによって断絶していることを心配している。

委員：学区で通学路の見直しを行い、朝、抜け道になっている通学路を警察、総代、学区社教の方等で話し合いの機会を設けた。皆で動かないと話が進まないのが現状、学区ごとで話し合いの場を設けるのも良い。

委員：廃校を地域で活用している。飲食に関わるものは全て中止しているが、グラウンドゴルフやご満足体操、山里のフォトコンテスト等を継続しており、野外ジャズはライブ配信のかたちでやっている。やっていないと次のアイデアが出て来ないため、それぞれの地域で考えていかななくてはいけない。

委員：社会教育審議会での話し合いがどこかに通じていくような道筋が必要、ここでの話し合いはここだけで終わらないようにしなければならない。

委員：コロナで様々なことが制限される中、小規模校は比較的活動ができているが、資金的な制約が大きく、校外学習に行きたくてもバス代が高く本数も少ないなどの課題がある。小規模校だからこそその苦労もあるが、学区の方々が声を出し寄付を集めてくれているなど、地域なくしては回らず大切に思っている。

委員：コロナで地域と学校が交わる機会が少なく、コミュニケーション不足があるところ 1, 2 年感じている。

委員：子ども達が育つときは子ども同士の関わりが大事だが、コロナによって断たれてしまった。キャンプも、テントで泊まるのは密になると言われるため、デイキャンプを行っている。手話の勉強をしたり、ゲームのように勉強を教えたり、コロナ禍でできる事を工夫しながら子ども達の活動を止めないように進めている。コロナに負けたくない、全部中止するのも嫌、その中でできる事を考えて、生きる力を育てたい。

委員：低年齢ではマスクがあると言葉が修得できにくく、愛着形成の大事な時期な

ので抱きしめることが大事。コロナ禍だから何もしないことでは育成によくないので、安全対策をとりつつやれることはやろうと思っている。コロナの基準も変わってきており、リスクが低い中でやることの方が良い。あいさつでも笑顔でもお互いに通じたことに趣を置いてもいいのかなと思う。

委員：コロナ禍で地域の行事ができていない中、市内小学生を募集し工作教室を行った。ペットボトルに大人が熱中しており、それを教えることを勧めている。今の小学生は生まれた時からパソコンがあり、コロナ禍でスマホの文字で友達と関わっている。それが当たり前となった子ども達と、コロナ禍後、どうしていけば良いかと私達も色々考えている。

委員：学校も地域の方も子ども達のためにして何かしてあげたいと考えている。両方が同じ考えならもっと早く動くのではないかと思う。文科省、市が進めているコミュニティスクールという活動をいかに推進していくか。そのために、審議会がどのような提言、助言ができるかというのが大切ではないか、学校とつなぐ役目も審議会ができればなと思う。

・次回審議会は令和4年6月～7月に開催予定